

## 研究成果報告書

(ふりがな) おおごし たくま

氏名 大越 卓摩

現職(所属名、職名等)新潟市立東中野山小学校, 教諭

修了又は卒業年月、専攻又は専修コース名 平成25年3月修了学校教育研究科学校教育専攻

#### I 研究テーマ

学校での学びと子どもの生活や社会とを結びつけるカリキュラムの開発と実践

#### II 研究の概要

本研究の目的は、学校での学びと子どもの生活や社会とを結びつけるカリキュラムを開発し、実践することで、その効果を検証することである。単元開発のために着想を得たのは教育学者デューイ (Dewey 1938=市村 2004) のオキュペーションの理論である。2年生活科の「わたしたちのやさいばけ」(学校図書)で、さつまいもを調理することをオキュペーションとして、国語や算数、特別活動とのつながりを意識して単元を開発した。単元を開発するときに留意したことは、時数や人材、学習環境等の制約条件を特別なものとしなかったことである。開発単元が、学校での学びと子どもの生活や社会とを結びつけることができたかどうかの分析は、4件法による質問紙調査(量的調査)と子どもの作文や授業記録(質的調査)により行った。

#### III 研究成果の概要

##### (1) 量的調査より

- ・本開発単元を好きと答えた子どもの平均は3.77, 生活に役立つと考えた子どもの平均は3.61, 内容が分かったと答えた子どもは3.55であった。
- ・生活に役立つという感覚は、本開発単元が好きという感覚と活動の中で書く力や算数の力、衛生的に調理しなければならない理由の理解が影響していることが重回帰分析の結果分かった。
- ・学校で学んだことを生かして、家庭でも調理する子が半数いた。

##### (2) 質的調査より

好きという感覚は、さつまいもを料理し食べるという感覚から生じると考えられる。また、書く力の向上は、生活科の授業の中で国語で学んだことを活用して作文を書く機会を設け、成長を認め伸ばすことが影響していると示唆された。算数の力は、算数の「かさ」の学習で学んだことを料理をする中で生かすことで、量を守ることの大切さを学ぶことができたことが子どもの記録から伺われた。

#### IV まとめと課題

オキュペーションの理論に着想を得た本開発単元「さつまいもをおいしく食べたいな」は子どもの興味にも合致しており、調理道具を工夫することで火や刃物を使わずに安全に調理することができた。2年生だけでも安全に調理することができることは、料理をするときにボランティアを必要としないだけでなく、教材への関わりを必然的に増やすので子どもの学びの質も高いものにすることが可能となった。さらに、子どもだけでスイートポテト等のおかしを作ることができるので、達成感にもつながった。また、さつまいもを調理することを中心活動として、国語や算数、特別活動の能力も高めることで、本開発単元自体が生活の役に立つという感覚を子どもに育てることができるとも分かった。

ただし、本研究においては、具体的に教師のどのような手立てが子どもの能力向上に寄与したかは十分に解明されなかった。この点を解明していくことが1点目の課題といえる。課題の2点目は、本研究で見出された知見の有効性の射程を検証することである。3点目は、今回の開発単元をオキュペーションの理論から見返したときに、更なる改良点は何かを探り、次の実践に生かしていくことである。